

発行所 日本キリスト教団 なか伝道所
〒231-0026 横浜市中区寿町 3-10-13 金岡ビル 305
Tel. (045) 671-1109
振替 00200 - 1 - 47369
E-Mail : naka@church.jp http://church.jp/naka/
発行者 渡辺英俊 (題字 松橋 順)

宣教方針
① 貧しい人々への福音に共にあずかる。
② 地域の問題に関わる。
③ 諸教会に呼びかけてゆく。
集会 主日礼拝 日曜日 午前10時30分より

横浜の放射能と子どもたち

寿から教会を考える⑦

島根治美さんに聞く

放射能を表す単位、外部被曝・内部被曝

ベクレル：放射性物質が1秒間に放射線を出す回数。土地や食品の汚染度を表す単位としても使われる。

グレイ：物質が吸収した放射線のエネルギーの総量（吸収線量）を表す単位。外部被曝の場合シーベルトとほぼ同じ。

シーベルト：人体が吸収した放射線の影響度を数値化した単位。吸収線量値（グレイ）に放射線の種類ごとに定めた係数を乗じて算出したり、影響する体の部分ごとへの影響から定めた係数を乗じて推定する値。

外部被曝：外部にある放射性物質から受ける被曝。

内部被曝：放射性物質を体内に取り込んだ場合の被曝。吸い込む、食べる、触れるなどにより、放射性物質を体内に取り込むと、その周囲の細胞が至近距離から継続的に強く照射されるため、組織や器官に大きなダメージを与える。成人より児童、更には乳幼児の方が影響が大きい。

横浜市磯子区で、野外での活動を中心に保育を行う無認可の幼稚園で働いている島根治美さん。去年の春は、福島原発事故の放射能に対しとりわけ影響を受けやすい子どもたちをどう守れば良いのかが分らない、恐怖に近い不安を抱えていたという。測定器を手に入れて、自分達で放射能を測り、学習会などで学びつつ横浜で放射能に対してどのように対処して良いかを迷いながらも模索し続ける。そんな経過を話して頂いた。

不安を抱えて

昨年三月十一日の地震と津波、一二日・一三日の福島原発の爆発があった直後の一四日、わたしたちは幼稚園の活動で子供たちと鎌倉を歩いていました。放射能についての政府からの情報はありませんでした。その後も、あとから知らされるメディアからの情報に驚くばかりで、無念にさえ思ったほどでした。

原発事故の情報の不足と、放射能の避け方が分からない無知とで不安が一杯でした。幼稚園に通ってくる子供たちの安全を守るための手だてが分からない後ろめたさにも、さいなまれました。

一九八六年四月二十六日のチェルノブイリでの原発事故の後、毎日のようにデモに出かけ反原発を叫んでいたのに、原発がなくても暮らせる省エネルギーな暮らしを実践し、子供たちも電気の無い暮らしを楽しめる子に育てたのに、自分だけの世界を変えても、原発は増え続けた。三・一一事故で孫たちの世界を汚してしまった私たち大人。放射能汚染に対して責任のとれない状態に、ただ後悔の一言しかありません。原発依存のエネルギー政策に否を唱えていながら、これ程深刻な惨状が目の前に起こる事を想起出来ませんでした。まさか、こんな事故

が起こるうとは……。原発を止めようとしても止まらないのは仕方がないと、どこかであきらめていた自分に気づき眠れぬ夜を過ごし、悔し涙にくれる毎日でした。それから、放射能関係の学習会や講習会で、福島と横浜の現状を知り放射能汚染からの身の守り方を学んで行きました。

昨年秋に放射線の測定器を手に入れて実際に測ってみました。自分の家の周囲では、

*室内：〇・〇四五マイクロシーベルトくらい
*庭：〇・〇九〇マイクロシーベルトくらい

そして園庭の大きな木の根元は〇・二近かったため、すぐに表土をはぎ取って、土嚢に詰めて保管。その他、幼稚園周辺や公園の落ち葉を日に二〜三回かき集めて子供たちから遠ざける。できることなら取り除くこと。秋からは、測ってみることを実践して、恐れていたほど汚染がなかったことに心が落ち着きました。しかし、福島の現状はこの一〇倍、所によっては数十倍もの汚染をしている事が分かり、後ろめたい気持ちが起こる複雑な思いでした。

子供たちと野外での活動が出来ると確信できるまでに半年以上かかりました。横浜市放射線モニタリングポストによると、秋ごろから雨の時の数値が飛び跳ねて上がるということがなくなり、雨の中を積極的に出かけることはしななくても、出先で雨が降ってきたらレインコートを着て園に帰ってくるようになりました。戸外での活動が増えて行きました。

被曝しないために

「横浜の子供たちを放射能から守る会」(ママパパの会)というネットのグループと出会いました。普通のお母さんたちが起こした会です。我が子を守ろうと、情報交換をしつつ行政交渉を活発に行う心強いグループでした。各地で声を上げ始めた親の会が立ち上がり、子供たちを放射能から守る全国ネットワークもあることを知り、たくさんの情報を得ることができました。汚染した藁を餌にした牛肉が、学校給食に出してしまったのを知り得たのも、行政にお任せでは発見できなかったことでした。ママパパの会の横浜市との交渉は、粘り強く、非難ではなくいっしょに子供たちを守り協力しようとする姿勢ですが、後には引かない強さを秘めていました。行政担当者との交渉でも、最初こそ難航していたものも、少しづつですが信頼のできるつながりができています。

教育委員会との交渉を続けるグループも、地道な学習会を続けています。この会も、相手に求めることばかりではなく、自らの考えで行動するために、今年三月に市民測定所を新たに設立して、さらなる歩みを始めました。内部被曝を避けるために食品の放射能測定を始める会に成長してまです。できれば、自ら発電所を設立し、原発をなくす一助になって行けたらという夢を抱いています。

一方、子供たちが活動する磯子区と金沢区の道程を、毎日放射能測定器を手に歩き

回り記録しました。分かったことは、測定値の高いところは、排水口、淀んだ水たまり、埃の吹きだまり等。そして私の発見した最も高かった場所は、森の中の直径一メートルほどのくぼ地で、〇・四マイクロシールド。大樹を伝って雨水を蓄えたところのようでした。横浜市の除染対象である〇・五九マイクロシールドにはなっていない禁じましたが、目印をつけ囲って立ち入り禁止にし、そこを避けて活動できました。他に子供たちが遊ぶ山や斜面の落ち葉の上は、地上五センチくらいの所で測っても一般の広場と変わらない汚染値でした(全く〇)というところは残念ながらもありませんでした。極端におびえて、活動できないような状態ではないと感じました。

メディアなどで使われる基準値というのはICRP(国際放射線防護委員会)の勧告を元に決められた数値で、一年間に一ミリシールドです。この値までならたとえ被ばくしても人の回復力によって挽回できるそうです(一日当たり約三マイクロシールド)。しかし、子供はこの一〇分の一でなければ活動させられないという人もいます。武田邦彦さん(中部大学)や小出裕章さん(京都大学)の本を読みあさると、一年間一ミリシールド内の外部被曝であれば、一気に浴びてしまっても、内部被曝を避けられれば(手を洗う、埃りを口に入れない、極端に汚染された食品を食べない等)、体は何とか回復することはできます。しかし、

五ミリシールドを超えると回復は不可能であるという数値を示しておられます。

このような数値から、わたしたちのエリアは、野外でお弁当を食べるときは、測定して危ないところは座らないようにしていますが、瞬時に通過するくらいなら大丈夫だという値のところしかないことが分かって、あちこちの活動を始めました。昨年の秋までは、五、六〇人の園児と室内での活動中心でした。一日中室内で過ごす幼児たち、元気を持たずして発散させるのに一苦労でした。これが学童ともなるとどれ程のフラストレーションがたまるとかと心配でした。福島の子供たちが戸外で過ごせないことでこれから先、どれ程の影響が出るのだろうか。子供たちも親たちも、精神的にも肉体的にも負担を抱えているだろうという気持ちにもなりました。

原発を止める

放射能は、残留農薬や今までの環境汚染と違って、汚染を測定器で数値化出来ることと救いです。測ってみて分かった数値の高いところは、森のくぼ地や、公園の落ち葉だまり、雨水の溜まりやすい排水口等で、子供たちに伝えていきます。周辺を測ってみると、小さなスポットは〇・二というのはありますが、〇・三を超えるところはまずなかったのです。

ところが、一月にママパパの会の人たちが子供の遊び場をしらみつぶしに測定したところ、金沢区のログハウスの雨どいの

下が〇・七あったんですね。その知らせを受け私も測定に行ったところ、見た目は何のへんてつも無い雨どいの下に、測定器を置くと値が見る見る上がって行き、見えない放射能が測定器の数値を通して汚染を知らせてくれました。放射能は無味無臭で見えないということの恐ろしさを感じました。横浜市の除染基準〇・五九を超えたので横浜市に伝えました。

この時の伝え方ですが、ただ数値を出すだけでは発表されずに処理されてしまうので、マスコミに伝えてから、公共にも伝える、というやり方を取りました。行政は大衆がパニックにならないように配慮をしているのです。しかし、身近にも汚染があるという情報を知らされなくて処理されてしまうと、原発事故の後も横浜は汚染がないと感じて、自ら判断する機会を失う恐れがあります。恐怖をおおるのではなく、危険から身を守るためには、どんな所が汚染されやすいのかを知ることが大切だと思います。

少しづつ、学んでいくうちに、「定期的に測定してホットスポットに近づかないようにしたり、手洗いうがいをするなどの注意は必要だが、(現在の首都圏の汚染状況は)子供たちが外で遊ぶことによる利益と引き換えるほどではないだろう」という、「たんぼ舎」(東京の原発団体)の意見が、わたしたちの考えと一致していました。そして、園長が実測値から計算して割り出した、わたしたちの活動年間被曝量の、

使信

名を呼ぶ

わたなべえいしゅん
渡辺英俊

主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持ってきて、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。

(創世記二章一九節)

自然と人間

人間は、自然界の一部なのか、それとも違うのか……。

人間の文明のゆがんだ発達によって自然が壊され、自然のバランスが失われて、このままでは地球が減びる……。どこかがひどく間違っている……。特に二〇一一年三・一一以後の世界では、この問いがいつそう切実になっているんじゃないでしょうか。

学者の間で、こんなことが言われるのを聞いたことがありますか？ 科学を発達させたのはヨーロッパの文明で、その根っこにあるキリスト教が問題だ……。人間は自然とは違った存在で、自然を支配できると考えたことが間違いのもとだ……。仏教のように、人間も自然そのもの

だと考えれば、もつと自然を大切にしようになる……云々。

これはとても無責任なもの言いだと思っ
て、大部分が仏教徒の日本だとして、
科学の発達や自然破壊という点では、欧米
よりも非良心的で悪質な面も多々あるんで
すから。

人間が、自然界の他の存在——植物はもちろ
ん動物でも——と違った能力を持っている
ことは否定できない事実で……。自然の一
部と考えようが、自然と違うと考えよう
が、特別の能力を持ってしまっていること

スーとねえ

「ごはん」がうまくいえなくて、「じゅばん」になる友
夕飯のしたくをしている父に

- ゆう 「じゅばん！」
- ちち 「ん？」
- ゆう 「じゅばん！」
- ちち 「ん？」
- ちち 「ん？」
- ゆう 「ごめだよ！！！」

(お米だいすきの 幸前 友 3才)

に変わりはないんですね。
もし、人間が大きいすぎる大脳を持ってしま
ったことが間違いで、もともと欠陥動物
なんだ……と考えるとしたら、人間がはび
こってしまった世界は滅びるほかないでし
よう。そうでなくて、他の自然界の存在と
異なる人間の能力を神の賜物と考えていく
なら、その使い方の間違いを改めていく道
を捜すことができるんじゃないでしょうか。

愛する能力

創世記の神話によると、神が、最初に造
られた人(「アダム」)のところへ、パート
ナーとなるべき存在を造って持つて来られ
たとき、人が名をつけたというんですね。
神話の世界では、「名」を呼ぶことは、そ
の名を持つ存在に対する支配力を持つこと
の意味があつて……。ですから、創世記の
神話は、人間が何らかの意味で自然界に対
して優位に立ち、それを「支配」する力

「計算が裏付けになり、野外での活動が
少しづつ広がりつつあります。一方、放射
線の影響はこれ以下なら安全だという「し
きい値」は存在しません。だから、内部被
曝を避けるために食品の汚染に気を付けて
います。

幼稚園で使っている食材も気を付けて
います。園庭のキウイを測定に出したら
一三ベクレル/キロでした。食べるか否か
は親御さんの判断にゆだねました。園長が
いくつ食べれば何ベクレルになるかを計算
して(一〇個食べて約四三ベクレル。シール
ト換算すると、一時間当たり〇〇〇三六マイク
ロシールト)、それを公表し、判断して頂き
ました。生協などにも、子供基準を別に作
って下さいと多くの親が働きかけました。
生産者への補償と消費者の安全を考え、全
食品を測定していくという形で、時間をか
けて安心できる基準を設けることができる
ようになりつつあります。

子供たちに過剰な心配をして外で遊べな
いと言うより、これくらいだから何時間は
遊べるよ、帰ったら手を洗つてうがいをし
てお風呂に入って埃りを落とせば、なんと
かしのげるよ、と言える数値を得ることが
できました。

これからわたしたちがやらなければいけ
ないのは、原発を止めることです。原発は、
ひとたび事故が起これば、生活の場を失う
ことを、今わたしたちは痛感しています。
原発を止める。これが私の決意です。

(まとも 宮崎祥司)

を持つことを認めていたんですね。

現代の思想では、名を付けることは、対象をほかのものとは違ったものと認識し、それを記号(名前)で表し、それに働きかけることができるということ……。コトバという、人間を他の動物界と区別する特別の能力を発動させるということ……。創世記は今から二五〇〇年以上前の人びとの神話的な表現で同じことを語っているんですね。

しかし、名前をつけて呼ぶということには、もう一つ大切な側面があるんじゃないでしょうか。それは、親が生まれてくる子どもに名前をつける場合ですね。子どもの幸せを願って、愛情を込めて名前をつける

んでしよう? そして生涯、愛情をこめてその名を呼ぶわけでしょう? 名を呼ぶという行為は、本来そういう愛の現れであり、愛することの一部なんです。人間が、神の造られたすべての物に名前をつけたというのは、そういう愛のわざだったんですね。

神は、ご自分の造られた一つ一つの物を人間のところへ持ってきて、人間がそれをどう呼ぶかを見られた……。そして、人間の付けた名を、そのものの名として承認された……。神はそのようにして、ご自分の造られた物への愛情を人間と共有することを望まれたんだ……。というのが、創世記の神話をメッセージなんです。

人がいるという驚き。

▽三月中旬より、厚労省の「社会的包摂支援事業」として、電話相談「よりよいホットライン」開始。外国語相談部門「ヘルプライン」の受け入れ団体としてカラバオの会が応募、毎週月曜夕方以降の電話対応を担当。対応言語日・英・中・タイで。四月二日、専門相談員として私自身も相談に参加。匿名で相談できるせいもあって、これまでに入ってこなかったような深刻な相談もいくつか。

▽横浜近辺からの相談でフォローの必要なケースがあり、カラバオの会が引き受けざるを得ず、ひとつひとつ手探りのサポート。駆け回る担当者を助けて私自身も区役所や法務局の窓口へ。それにしても、こんなに孤立無援の状態におかれる

どう使うか

間違いは、自然界に働きかけてそれを造り変えていく能力―名を呼ぶ力―が与えられたことなんじゃない……。人間の間違いは、被造世界への愛を神と共有することを忘れたところにある……。人間の自然界への働きかけが、愛の働きかけでなく、奪い破壊する働きかけだったところに、根本の間違いがあるんだ……。というのが、創世記神話の語りかけだと思っんですよ。

昨年(2010)の三・一一以後、わたしたちは現代文明が作り出した、まるで黙示録に描かれた怪物のように制御できない怪物を目の前にしていると思っんです。原発は、それが作り出したものでもない、現代の人間が作り出したもの……。だから何としても、人間の力で片付けなければならぬもの……。

……。けっして子孫に付けを回すようなやり方をしてはいけぬもの……。ここでこそ、人間が名を呼ぶ能力を与えられて世界におかれていることの責任を取らなければならないと思っんですよ。

神が私の名を呼んでこの世界に送ってくださったように……。親が子どもの名前を呼んで慈しむように……。そして人間が互いに名を呼んで愛し合うように……。人間はこの世界の被造物の名を呼んでいとおしむために、この世界におかれている……。フクシマ後の今という時点で、教会が日本社会に向けて強く語りかけなければならぬ「福音」とはこれなんだと思っんですよ。

なか伝道所支援献金のお願い

皆様からご支援をいただき、伝道所の活動が支えられています。心より感謝し、前年度の報告を申し上げます。

今年も今まで同様、皆様のお祈りと支援献金へのご協力をお願いいたします。

(収入の部)	
前年度繰越金	27,720
支援献金	618,500
クリスマス献金	618,100
利子	0
合計	1,264,320
(支出の部)	
振込み負担金	16,610
通常会計へ	1,200,000
次年度へ繰越	47,710
合計	1,264,320

支援献金 (三月分)

支援献金 (四月分)

感謝してご報告いたします。

編集後記

かつて広島と長崎に原子爆弾が落とされ、唯一の被爆国である我が国に、原子力発電所が五〇基もあるということ。命と経済とを天秤にかけ、迷わず経済を選択する人がいるということ。(祥)